

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立城陽高等学校 】

1 実践テーマ	【 III・IV 】
2 実施対象者	全校生徒（930名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育科）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（人権教育）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) デフリンピック大会や、デフサッカー競技についての興味関心を高めつつ、障がいがありながらもアスリートとして活動する人から勇気をもらう。</p> <p>(2) 目標を設定し、継続して努力することの大切さを学び、自己の夢や進路決定に生かす。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習…人権学習として実施 1年生 11月14日 「障害者理解に関する講演（小林春彦氏）」 …障害者に対する理解を深める。</p> <p>(2) 講演 堀井聡太氏による 11月21日 デフサッカー日本代表の堀井聡太氏による講演。</p> <p>① 題名 「困難に打ち勝つ勇気」</p>



② 内容

ア 小学校、中学校時代の生き立ち

イ 高校入学とサッカー

ウ デフサッカーと出会って 等



③ 実技交流 堀井氏とサッカー部員による 11月21日
堀井氏とサッカー部員による実技交流をグラウンドで行った。7
対7のミニゲームを6本行った。



6 主な成果

講演は好評で、生徒の聴講態度を見ていると、顔を上げて話を聞いている生徒が多かった。また、講演後の質問も積極的に手を挙げる生徒がいた。質問については聴覚障害を持っておられるため、生徒の質問をアシスタントの生徒がメモに写し取り、それを堀井氏に見せる形で行った。生徒は聴覚障害というものを実感できた。

講演後の実技交流は、自由観覧としていたが、数人の生徒がグラウンドで見学をしていた。実技交流においては、懸命にボールを追う堀井氏の姿から部員は精神面や技術面において多くのことを学び取った。終了後は部員と和やかに交流し多くのアドバイスを伝えていた。

7 実践において工夫した点
(事業の特色)

堀井氏の話について、少し聞き取りにくい面もあったが、あえて通訳や手話をつけずに行った。

8 主な課題等

実技交流について全校生徒に見てもらうことができなかった。

9 来年度以降
の実施予定

未定